

平成30年度事業報告書

(平成30年4月1日 ~ 平成31年3月31日)

令和元年6月5日(水)

公益財団法人DNP文化振興財団

平成30年度事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

1 アーカイブ関連事業

(1) 田中一光アーカイブ

①本人作品 ポスター	2,723 点
版画	257 点
エディトリアル	2,417 点
原画類	3,549 点
その他 (パンフ/V. I. 等)	3,051 点
②資料写真	27,988 点
その他資料類	2,645 点
③他作家作品 ポスター・版画等	1,143 点
その他	163 点
④蔵書	9,541 点

(2) 福田繁雄ポスターアーカイブ

①本人作品 ポスター	1,614 点
版画	180 点
原画類	509 点
その他 (クラフト作品等)	337 点
②資料 書籍等	351 点
③他作家作品 ポスター・版画	2,128 点

(3) 永井一正作品アーカイブ

①本人作品 ポスター	913 点
版画	328 点
エディトリアル	1,273 点
原画類	797 点
その他 (V. I. 等)	775 点
②資料 作品ポジ	646 点
その他資料類	2,125 点
③他作家作品 ポスター・版画等	153 点
その他	63 点

(4) ポスターアーカイブ (平成31年3月末現在)

1 収蔵作家：237名 (国内作家120名 海外作家117名)

2 総点数：15,156点

3 平成30年度の受入れ状況：

[国内作家]

佐藤晃一 59点

鈴木守 38点

新島実 13点

計110点

(5) アーカイブ作品の貸出

① 諸橋近代美術館

「夢幻×無限 ～エッシャー、ダリ、福田繁雄～」展

会期：平成30年4月20日～6月24日

概要：福田繁雄作品7点を貸し出し

② 武蔵野美術大学 美術館・図書館

「新島実と卒業生たち—そのデザイン思考と実践

1981-2018」

会期：平成30年9月3日～9月29日

概要：新島実作品18点を貸し出し

③ パリ装飾芸術美術館(フランス)

「ジャポニスムの150年」展

会期：平成30年11月15日～平成31年3月3日

概要：田中一光作品1点を貸し出し

(6) アーカイブ作品の寄贈

① 平成30年5月 アムステルダム市立美術館(オランダ)に下記作品を寄贈しました。

田中一光ポスター44点、福田繁雄ポスター4点、永井一正ポスター44点

② 平成30年12月 M+美術館(香港)に下記作品を寄贈しました。

田中一光ポスター215点、福田繁雄ポスター231点、永井一正ポスター224点

2 展示関連事業

(1) ggg(ギンザ・グラフィック・ギャラリー)の展示

〒104-0061 中央区銀座 7-7-2 DNP 銀座ビル1階、地下1階
日曜・祝祭日休館 11:00a.m. - 7:00p.m. 入場無料

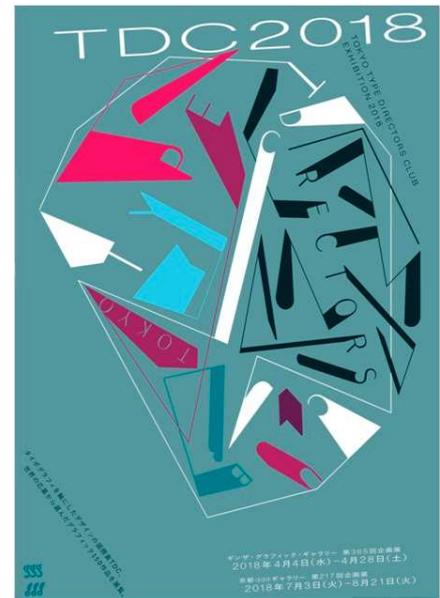
■第 365 回 TDC2018 展

会期: 2018 年 4 月 4 日(水)~4 月 28 日(土)

入場者: 7,677 名、一日平均: 349 名

毎年恒例となっている、東京タイプディレクターズクラブが主催する国際アニュアルコンペティションの成果発表展です。タイポグラフィを軸にした国内外のグラフィックデザインの優秀作品 150 点あまりを展示しました。総入場者 7,677 名と過去 ggg で開催された TDC 展のなかでは最大の入場者を集めました。

本展から用意をした中国語(簡体字)、韓国語のインバウンド向けハンドアウト資料は 1,907 部が利用され確実にアジア圏国外来場者が増加しているものと思われます。



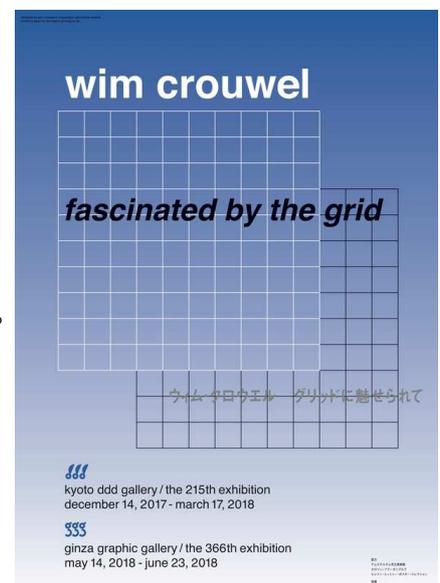
■第 366 回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

会期: 2018 年 5 月 14 日(月)~6 月 23 日(土)

入場者: 5,778 名、一日平均: 161 名

オランダのグラフィックデザイナー、ウィム・クロウエルの業績の全容を伝える日本初の展覧会として京都 ddd ギャラリーより巡回しました。クロウエルは教育、執筆、そして講演活動も精力的に行いながら、グラフィックデザイナーとして、グリッドを活用した合理的かつシステムティックなデザインを推進しました。

本展では、クロウエルの全業績を顧みること、理論と手法に詩情と美学を統合させた彼の作品づくりを統合的に紹介しました。



■ 第 367 回 HARUMI YAMAGUCHI × YOSHIROTTEN Harumi's Summer

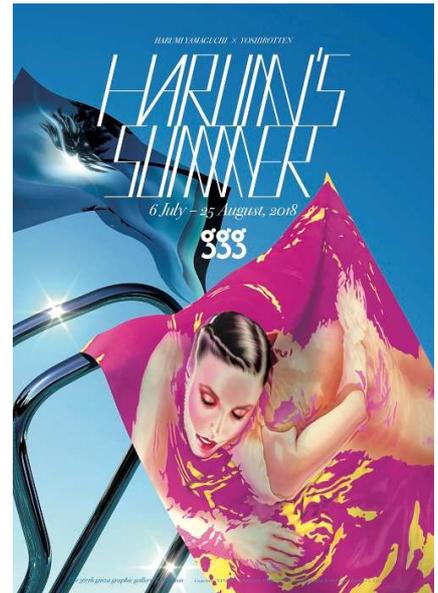
会期： 2018 年 7 月 6 日(金)～8 月 25 日(土)

入場者： 10,250 名、一日平均： 244 名

展示・構成にあたっては若手アーティスト／アートディレクターの YOSHIROTTEN をコラボレーターとして迎え、山口はるみの作品の数々を、YOSHIROTTEN 独自の視点で切り取り、会場インスタレーションとして再構築する試みを行いました。2F の多目的ホールでは時代を彩った往年の PARCO の CF を上映し、あわせて一部原画の展示もおこないました。

会期後半にさしかかる頃より、SNS による会場風景写真の拡散が進み、展覧会場をインスタグラムの撮影スポットとして訪れる来館者も増加し、ggg歴代6位の来場者を集めました。

本展に併せ、『gggBooks-126 山口はるみ』も刊行しました。



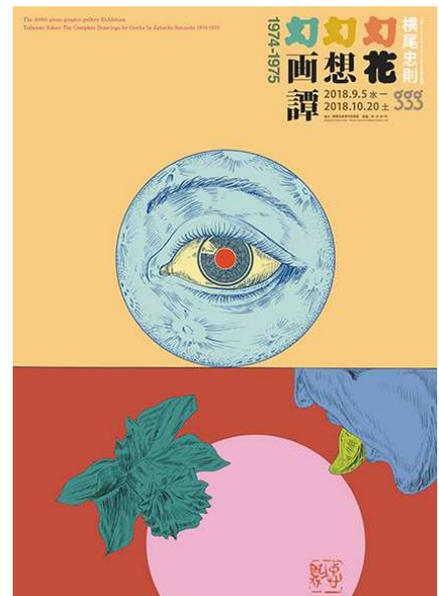
■ 第 368 回 横尾忠則 幻花幻想幻画譚 1974-1975

会期： 2018 年 9 月 5 日(水)～10 月 20 日(土)

入場者： 12,420 名、一日平均： 345 名

1974 から 75 年にかけて、東京新聞に連載された瀬戸内晴美(現・瀬戸内寂聴)『幻花』のための挿絵原画 371 点を一挙に公開する展覧会です。横尾忠則現代美術館の協力のもと、作家自らが命名した「幻花幻想幻画譚」を受け継ぎ、gggならではの新たな視点から再構成しました。

2Fでは、横尾忠則現代美術館での公開時に開催された瀬戸内寂聴、浅田彰、横尾忠則による鼎談の貴重な映像を上映しました。総入場者数 12,420 人とggg歴代第 3 位の集客となりました。



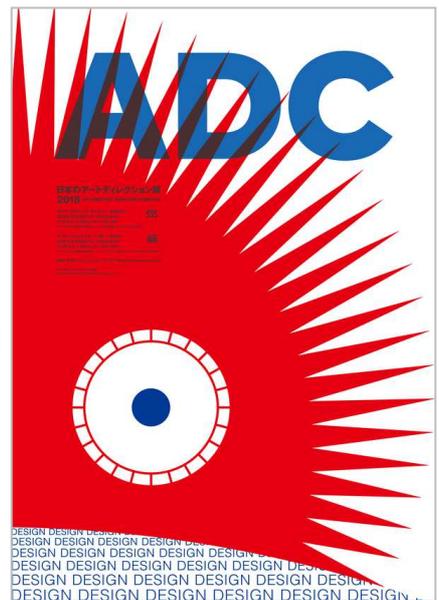
■第 369 回 日本のアートディレクション展 2018

会期： 2018 年 10 月 29 日(月)～11 月 22 日(木)

入場者： 6,411 名、一日平均： 305 名

昨年まで ADC 展として開催されていた恒例の展覧会を今年から名称を変更して開催しました。開催時期も昨年までの夏季から、ADC 賞授賞式ならびに年鑑『Art Direction Japan / 日本のアートディレクション』の発行に近いこの時期の開催に変更となりました。

「新しい地図」のインスタグラム拡散もあり、昨年を大きく上回る集客になりました。クリエイションギャラリーG8で開催したADC一般参加作品と合せ、展示作品は小諸高原美術館への巡回となりました。また今回より、石川県野々市市にある文化交流拠点施設「学びの杜のいちカレード」にも巡回されました。



■第 370 回 続々 三澤 遥

会期： 2018 年 12 月 3 日(月)～2019 年 1 月 26 日(土)

入場者： 10,866 名、一日平均： 286 名

プロダクトデザインの感性をルーツとしながらも、2017 年 JAGDA 新人賞を受賞、日本デザインセンターで三澤デザイン研究室を主宰する気鋭のアートディレクター三澤遥の個展を開催しました。

水中でくらす生物たちの生態環境を追究した「waterscape」、動的な機能を持つ紙を探究した「動紙」、上野動物園の知られざる世界を視覚化した「UENO PLANET」等、これまで取り組んだプロジェクトを紹介するユニークな展覧会となりました。

SNS 等を通じた情報拡散が効果的に機能し、感度の高い来館者を多数集めることができました。

また、多言語アプリ「カタログポケット」を用いた日、英、中(簡体字)、韓 4ヶ国語による作品解説の提供を開始しました。本展に併せ、『gggBooks-128 三澤 遥』も刊行しました。



■第 371 回 ポーラ・シェア: Serious Play

会期: 2019 年 2 月 4 日(月)~3 月 25 日(月)

入場者: 7,947 名、一日平均: 194 名

ニューヨークを舞台に数々のデザインを生み出してきたレジェンド、ポーラ・シェアの展覧会を開催しました。ポスター作品をはじめ、ロゴデザイン、空間デザイン、ブックデザイン他、充実したキャリアのなかでもエポック的な仕事に焦点をあて紹介しました。

また、20 年ほど前から取り組んでいる一連の地図アートから選出した 16 作品を展示しました。NHK アートシーンで取り上げられたこともあり特に最終週には数多くの来館者が詰めかけました。



(2) ddd(京都dddギャラリー)の展示

〒616-8533 京都市右京区太秦上刑部町 10

11:00-19:00(土曜・日曜特別開館 18:00 まで) 日曜・祝日休館 会期中一回日曜特別開館 入場無料

■ 第 216 回 Graphic West 7: YELLOW PAGES

会期: 2018 年 4 月 10 日(火)~6 月 23 日(土)

入場者: 1,297 名、一日平均 21 名

『アイデア』誌に連載され、アジアのデザイナーを深く掘り下げた切り口で注目を浴びた特集「YELLOW PAGES」を展覧会化したものです。北京、ソウル、台北のデザイナーを取り上げ、「作品」の展示だけでなく、デザイナーと一緒に仕事をするクライアント、写真家や編集者、印刷会社などの協業者の活動も展示することにより、互いのインプット/アウトプット関係を軸に各都市のデザイン事情を紹介しました。



■ 第 217 回 TDC2018 展

会期: 2018 年 7 月 3 日(火)~8 月 21 日(火)

入場者: 996 名、一日平均 24 名

gggからの巡回展です。(2018 年 4 月開催)



■ 第 218 回 田名網敬一の現在 -Keiichi Tanaami Dialogue

会期: 2018 年 8 月 28 日(火)~10 月 23 日(火)

入場者: 1,460 名、一日平均 31 名

1960 年代から半世紀以上ものキャリアを誇り、今も尚そのキャリアの頂点を極めている田名網敬一の現在を紐解こうとする試みです。最新作の大型プリント作品 18 点の展示やプロジェクターとディスプレイによる最近のアニメーション作品の上映をおこないました。またファッションブランドとのコラボレーションアイテム、出版物、プロダクトアイテムなどを網羅し、氏の「ポップでサイケ」な極彩色の世界を紹介しました。黒と黄色で統一されたインパクトある会場デザインも好評で、若い方を中心に、長時間にわたって滞在する来場者が多い展覧会となりました。



■特別展 京都 ddd ギャラリー・京都市立芸術大学 ビジュアル・デザイン研究室 共催展
グラフィックで科学を学ぼう 進化のものがたり展

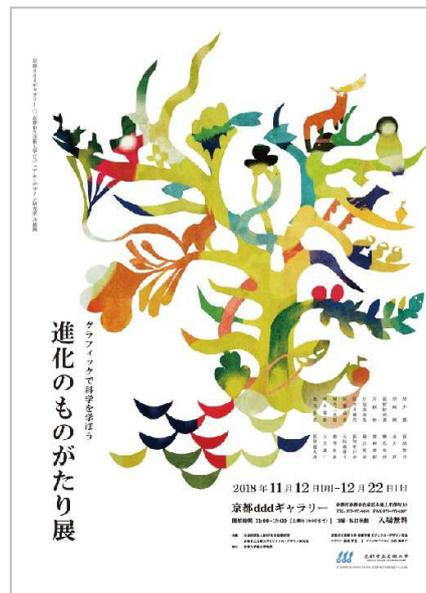
会期： 2018 年 11 月 12 日(月)～12 月 22 日(土)

入場者： 661 名、一日平均 19 名

ビジュアル・デザイン専攻の学生たちが、生物の進化について子供たち(小学校 中・高学年)に伝えるために、ゲーム、映像、絵本など多岐に渡ってデザインした作品を展示する展覧会です。

今回の作品には全て、なんらかの「ものがたり」が加えられ、学生たちは子供たちに楽しく、分かりやすく情報を伝えるためのコミュニケーションツールとしてのデザインを模索しました。科学と芸術が並存する、グラフィックデザインの可能性を検証しました。

なお、今回の連携展のテーマである「科学を芸術に“つなげる”」という教育プロジェクト自体への評価の声も多く寄せられました。



■第 219 回 組版造形 白井敬尚

会期： 2019 年 1 月 12 日(土)～3 月 16 日(土)

入場者： 1,597 名、一日平均 30 名

gggからの巡回展です。(2017 年 9～11 月開催)

京都 ddd ギャラリーでも、言語アプリ「カタログポケット」を用いた日、英、中(簡体字)、韓 4ヶ国語による作品解説の提供を開始しました。



(3) CCGA 現代グラフィックアートセンターの展示

〒962-0711 福島県須賀川市塩田宮田 1

午前 10:00～午後 5:00(入館は午後 4:45 まで)

一般=300 円 / 学生=200 円 / 小学生以下と 65 才以上、障害者手帳をお持ちの方は無料。

■第 74 回 少数精鋭の色たち—DNP グラフィックデザイン・アーカイブより

会期: 2018 年 3 月 1 日(木)～6 月 10 日(日)

入場者: 646 名 一日平均 7.4 名

CCGA 所蔵の DNP グラフィックデザイン・アーカイブのポスターの中から、少数の選ばれた色(3色以下)を用いて制作された作品約 120 点を年代、国を問わず展示しました。幾何・イラスト・写真・文字の 4 つのカテゴリに分けて展示をおこない、デザイナーたちが限られた条件の中で最も効果的な表現を探り、思い思いに力をふるった挑戦の数々をご覧くださいました。



■第 75 回 北川健次:黒の装置—記憶のディスタンス

会期: 2018 年 6 月 16 日(土)～9 月 9 日(日)

入場者: 764 名 一日平均 10.3 名

版画家・現代美術家の北川健次の回顧展です。さまざまなメディアを横断する北川健次の多面的な創作の中から、その原点である銅版画を中心に近年の表現の中心であるオブジェを加えた代表作計約 100 点を展示し、観る者の記憶や想像力を喚起する彼の作品世界をご覧くださいました。



3 教育・普及関連事業

(1) ギャラリートーク(セミナー)

展覧会の開催に合わせて24回のギャラリートークを開催しました。

ggg(東京)会場:10回 603名 / ddd(京都)会場:13回 368名 / CCGA(福島)会場:1回 55名

ギャラリートークは、会場のセミナー会議室、展覧会場、周辺施設などを使って、展示作家、キュレーターの方々等に、講演形式、対談形式、ワークショップ形式などでグラフィックデザイン、アートへの思いを語っていただき、グラフィックアート、デザイン文化の普及促進につなげています。

セミナーのインターネット中継をおこなうことで、不特定多数の方の参加機会が増加しています。

CCGA(福島)では、来館者の希望に応じて無料のギャラリー解説を行なっています。



(2) 版画工房(CCGA／ワークショップ)

CCGAを版画鑑賞および版画教育の拠点とするために版画工房を開設し、以下の講座を開講しました。

●北川健次展銅版画ワークショップ

日時：6/30(土)・7/1(日)

計2日間 各日11:00～17:00

講師：加藤史郎氏(プリンター、加藤史郎版画工房主宰)

概要：90年代以降の北川健次氏の版画作品を手がけたプリンター、加藤史郎氏を講師に迎え、オリジナルのインク制作など銅版画の「刷り」の技術を学ぶものです。銅版画制作経験者を対象としました。

受講者数：10名



●木口木版で蔵書票づくり

日時：11/17(土)、11/24(土)、12/1(土)、12/8(土)

計4日間 各日10:00～16:00

講師：野口和弘氏(版画家)

概要：木口木版を用いた蔵書票の制作です。昨年と同講師による木口木版を用いたクリスマスカード作成をおこないました。

受講者数：10名



●版画工房一般開放

ワークショップ開講日以外の土曜日に工房を一般に開放しています。

(1、2月は冬期休館)

(3) ggg Books

●ggg Books を発行しました。

『ggg Books -126 山口はるみ』: 1,165 円、1500 部

『ggg Books -127 榎本了壺』: 1,165 円、1500 部

『ggg Books -128 三澤遥』: 1,165 円、1500 部

ggg Books は電子書籍版も発行しました。



榎本了壺氏は 2016 年度に ggg で展覧会を開催しました。

(4) 図録等の発行と頒布

●ポーラ・シェア: Serious Play (ggg)、北川健次: 黒の装置—記憶のディスタンス (CCGA) の開催に合わせて、図録、作品解説を作成しました。



ポーラ・シェア表紙

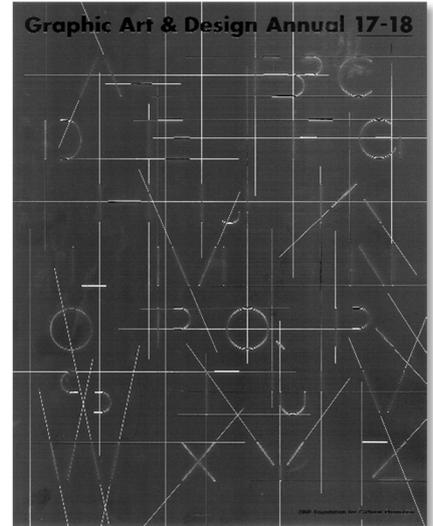
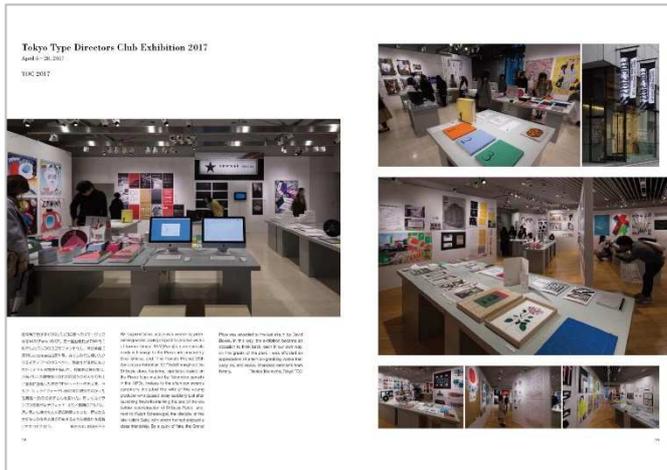


見開き



北川健次表紙

● アニュアルレポート



表紙デザイン: フィリップ アペロア氏

4 国際交流関連事業

(1) AGI(国際グラフィック連盟)日本会員事務局サポート

●9月23日～30日、AGI メキシコシティー総会 2018に参加しました。

日本会員の講演準備や海外会員とのコミュニケーションを支援し、非参加会員への総会報告を行ないました。また、AGI 新会員推薦の支援を行い、日本からは、田中義久氏、渡邊良重氏、吉田ユニ氏が新たに入会しました。



(2) AGI in India 協力

●11月22日、23日にインドのプネ(ムンバイ近郊)で開催された AGI in Indiaに参加しました。

AGIの地域拡大と活性化を目的とした、会員のいない国での初のイベントとなりました。

佐藤卓氏が中心となり、地元の大学(ADYPU)にて、AGI 国際会長をはじめ、会員による講演やポスター展、学生向けのポスターコンペティションやワークショップなどが開催されました。財団では国内外作家のポスター収集や輸送に協力しました。



5 研究助成関連事業

(1) 平成30年度年間研究助成プログラムの実施

● 募集テーマ

A部門《グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする研究》

グラフィックデザイン、版画などのグラフィック文化に関係する幅広い学問領域の研究。例えば、美術史デザイン史、美学芸術学、博物館学アーカイブズ学、美術教育学、比較文化論、画像工学、技法材料・保存科学、心理学、法学、経済学など。

B部門《グラフィックデザイナー、田中一光に関する研究》

DNP文化振興財団が保有する田中一光アーカイブ(作品、写真、書類、蔵書等、5万点を超える資料群)を活用した、田中一光に関する研究。



● 平成30年度採択研究 (13件)

No.	部門	テーマ	氏名 所属	決定額 (申請額)	次年度 継続希望
1	A	イメージ、タイポグラフィ、イデオロギー：植民地時代(1920-30年代)における韓国の構成主義	鄭善娥(チョン, ソナ) ソウル大学 博士課程	400,000 (500,000)	○
2	A	視覚文化研究における生物学とバイオメディアの考察：微生物によるグラフィックスを事例に	長谷川 紫穂 埼玉大学大学院人文社会科学 研究科 産学官連携研究員	500,000 (500,000)	○
3	A	古代地中海文明における空間と平面を繋ぐ媒体としてのグラフィックアートに関する研究：古代エジプトのデザイン技法の分析を中心に	安岡 義文 東京大学大学院工学系研究科建 築学専攻 日本学術振興会特別研 究員 SPD	500,000 (500,000)	○
4	A	画面デザインの保護のあり方・意匠法による保護拡張は必要か	麻生 典 九州大学芸術工学研究院 助教	500,000 (500,000)	○
5	A	実験心理学手法による慣用色名認識の現状把握とカラーシステムへの対応性評価	吉澤 陽介 木更津工業高等専門学校情報工 学科 准教授	500,000 (500,000)	○
6	A	写真植字と光学的デザイン：1950年代末～90年代前半の日本における組版とブック・デザインの展開	阿部 卓也 愛知淑徳大学創造表現学部 准教 授	500,000 (500,000)	○

7	A	書物の機能と装飾: 西欧初期中世法典写本の研究	安藤 さやか 東京藝術大学美術学部芸術学科 教育研究助手	250,000 (500,000)	○
8	A	亜欧堂田善の西洋版画受容の手法と特色	坂本 篤史 福島県立美術館 副主任学芸員	500,000 (500,000)	
9	A	近代日本写真における雑誌からオリジナル・プリントへのメディア変遷—ギャラリスト・石原悦郎の書簡アーカイビングを通じて	粟生田 弓 東京大学大学院情報学環 特任助教	500,000 (500,000)	○
10	A	ドイツ語圏のジャポニスム: ヴァルター・クレムとカール・ティーマンの多色木版画を中心に	青木 加苗 和歌山県立近代美術館 学芸員	500,000 (500,000)	○
11	A	明治期キリシタン版画にみる日本文化の受容と展開	白石 恵理 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国際日本文化研究センター 助教	400,000 (500,000)	
12	A	井上隆雄写真資料のアーカイブ構築に基づいたラダック仏教壁画のグラフィック的観点からの表現技法研究	山下 晃平 京都市立芸術大学美術学部 非常勤講師	500,000 (500,000)	○
13	A	パウル・スハイテマのグラフィックデザイン手法: 雑誌「De 8 en Opbouw」におけるタイポグラフィと画像の統一的表現	井上 宗則 東北大学大学院工学研究科 助教	300,000 (500,000)	

合計 5,850,000

●平成29年度採択研究継続助成（10件）

No.	部門	テーマ	氏名 所属	決定額 (申請額)
1	A	言語・言葉: オイゲン・ゴムリンガーのタイポグラフィと具体詩について	マーガー, サイモン ローザンヌ州立美術学校 助手	300,000 (500,000)
2	A	デザイン保護法制におけるグラフィックデザイン—意匠法における保護対象としての位置づけを中心に—	末宗 達行 早稲田大学法学学術院助手・同大学院 法学研究科博士後期課程	500,000 (500,000)
3	A	グラフィカルユーザインターフェースの法的保護について	吉田 悦子 大阪大学知的基盤総合センター 特任 研究員	500,000 (500,000)

4	A	植民地的近代のイメージ: 植民地期朝鮮の広告とグラフィックデザイン	全 庸 槿 (ジョン, ヨンゲン) ロイヤル・カレッジ・オブ・アート 博士課程	500,000 (500,000)
5	A	生成・消滅・再生する切り紙のかたち—日本と世界の比較文化研究	丹羽 朋子 人間文化研究機構 特任助教	250,000 (500,000)
6	A	エンブレムブックの中南米のキリスト教美術への影響	伊藤 博明 専修大学文学部 教授	300,000 (500,000)
7	A	20世紀初頭の英国前衛美術と印刷メディアの発展—ヴァーティシズムのドローイングを手掛かりとして	要 真理子 跡見学園女子大学 准教授	300,000 (500,000)
8	A	独立以前のエストニアにおける風刺画と文芸新聞及び雑誌の相関	有持 旭 広島市立大学 専任講師	500,000 (500,000)
9	A	芹澤銈介『絵本どんきほうて』と民藝運動	トルヒヨ・デニス, アナ コミーリヤス・ボンティフィカル大学 講師	500,000 (500,000)
10	A	小中学校デジタル理科教科書における「技術」のイメージに関する研究	郡司 賀透 静岡大学大学院教育学領域 准教授	500,000 (500,000)

合計 4,150,000

●平成31年度新規採択スケジュール

4月初旬 告知開始

5月1日～7月17日 申請期間

7月17日 募集締め切り

8月31日 平成30年度採択研究中間報告書締切

9月14日 審査委員による一次審査(書類による審査)完了

9月27日 審査委員会による二次審査開催。採択研究を選考

10月上旬 採択者への通知、ウェブ上での公表

●審査委員メンバー

柏木 博(委員長).....武蔵野美術大学名誉教授

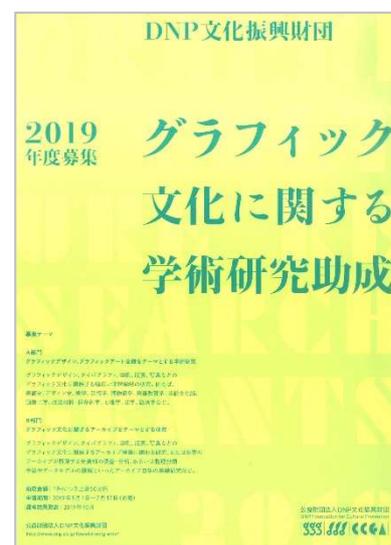
前田富士男.....中部大学客員教授、慶應義塾大学名誉教授

井口壽乃.....埼玉大学副学長

建畠 哲.....多摩美術大学学長、埼玉県立近代美術館館長

永原康史.....多摩美術大学教授

並木誠士.....京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長



(2) 研究助成成果報告会開催

11月30日(金)、東京国立近代美術館講堂および館内のレストランにおいて「グラフィック文化に関する学術研究助成成果報告会兼交流会」を開催し、総勢84名が参加しました。報告会も充実した内容になり、交流会では活発な交流が図られるなど非常に意義深い活動となりました。

同時に『DNP 文化振興財団 学術研究助成紀要 Vol.1』も刊行しました。これまでに助成期間が終了し、成果論文を提出した26名の研究者の論考を掲載しました。B5判、本文292ページ、非売品、800部印刷



成果報告会



交流会



研究紀要

(3) 平成30年度協賛助成実績 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	対象	主催	年月	金額	備考
1	第30回すかがわ国際短編映画祭へ協賛	すかがわ国際短編映画祭実行委員会／須賀川市教育委員会	2018/5	30,000 円	短編映画フェスティバルおよびコンペ
2	須賀川地区高校美術部研修会	須賀川地区高校美術部連盟	2018/7	50,000 円	CCGA にて開催の須賀川地区高等学校美術連盟研修会の送迎バス運行費
3	第30回田善顕彰版画展へ協賛	須賀川商工会議所青年部／須賀川市教育委員会後援	2019/2	50,000 円	須賀川出身の江戸期の銅版画家、亜欧堂田善(あおうどうでんぜん)顕彰を目的とする、市内小中学生対象の版画コンクール

(4) 会員参加

以下の団体の会員となっています。

1. 東京イラストレーターズ・ソサイエティ / 賛助会員
2. 東京アートディレクターズクラブ / 賛助会員
3. 公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会 / 賛助会員
4. 東京タイプディレクターズクラブ / 法人・団体会員
5. 公益財団法人助成財団センター / 会員
6. 全国美術館会議 / 会員館(CCGA現代グラフィックアートセンター)
7. 東京アート&ライブ構想実行委員会 / 会員

6 会議の開催

●第20回理事会

(平成 30 年 5 月 23 日 水曜日)

提案(1)平成 29 年度(4 月 1 日～3 月 31 日)事業報告および収支決算について

提案(2)評議員会の招集について

●第9回 評議員会

(平成 30 年 6 月 7 日 木曜日)

DNP市谷加賀町ビル 17階 会議室

東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

第1号議案 議長の選任について(決議事項)

第2号議案 議事録署名人選出について(決議事項)

第3号議案 平成 29 年度(4 月 1 日～3 月 31 日)事業報告書について(報告事項)

第4号議案 平成 29 年度(4 月 1 日～3 月 31 日)決算報告書について(決議事項)

第5号議案 理事の選任について(決議事項)

●第21回 理事会

(平成 30 年 6 月 7 日 木曜日)

DNP市谷加賀町ビル 17階 会議室

東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

第1号議案 理事長および専務理事の選任について(決議事項)

第2号議案 平成 29 年度利益相反取引の承認について(決議事項)

第3号議案 理事長および専務理事の業務執行状況について(報告事項)

●第22回理事会

(平成 31 年 3 月 19 日 火曜日)

DNP銀座ビル3階 302、303 会議室

東京都中央区銀座7-7-2

第1号議案 寄付金の受入について(決議事項)

第2号議案 特定費用準備資金について(決議事項)

第3号議案 事業計画、予算計画について(決議事項)

第4号議案 利益相反取引の承認について(決議事項)

第5号議案 資金調達及び設備投資の承認について(決議事項)

第6号議案 研究助成プログラムの助成金交付について(決議事項)

第7号議案 協賛計画について(決議事項)

第8号議案 理事長および専務理事の業務執行状況の報告について(報告事項)

以上